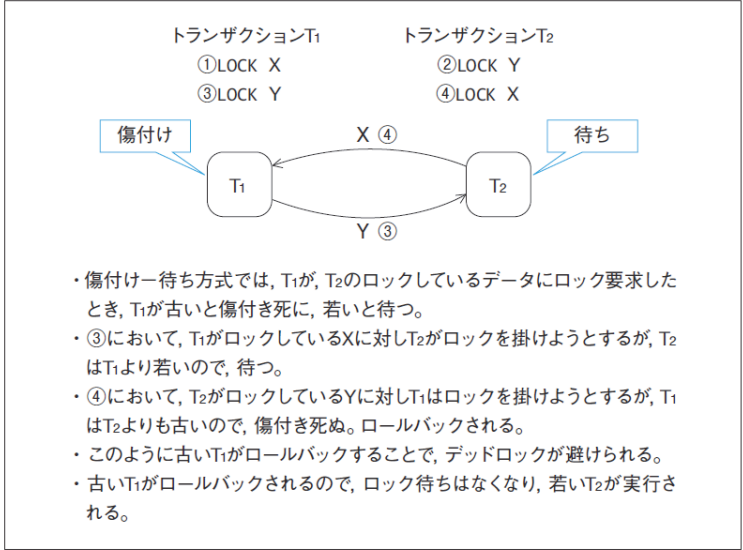
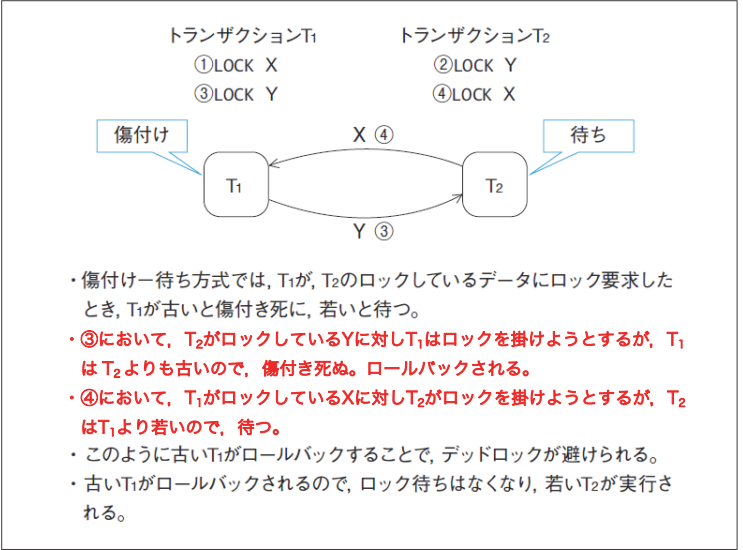


正 誤 表

下記の部分に誤りがありましたので訂正させていただきます。
ご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。

データベース技術の教科書 第1版 第1刷

No	訂正箇所	誤	正
1	P. 129 本文 下から 7～4行目 値式コン マリスト	<p style="color: red;">(LとRの添字に一部誤りがありました)</p> <p>(c) 左辺 < 右辺 $(L_1, L_2, \dots, L_i - 1) = (R_1, R_2, \dots, R_i - 1)$ が成 り立ち, $L_i < R_i$ が成り立つときに真。</p> <p>(d) 左辺 > 右辺 $(L_1, L_2, \dots, L_i - 1) = (R_1, R_2, \dots, R_i - 1)$ が成 り立ち, $L_i > R_i$ が成り立つときに真。</p>	<p>(c) 左辺 < 右辺 $(L_1, L_2, \dots, L_{i-1}) = (R_1, R_2, \dots, R_{i-1})$ が成 り立ち, $L_i < R_i$ が成り立つときに真。</p> <p>(d) 左辺 > 右辺 $(L_1, L_2, \dots, L_{i-1}) = (R_1, R_2, \dots, R_{i-1})$ が成 り立ち, $L_i > R_i$ が成り立つときに真。</p>
2	P. 136 本文 下から 4行目	<p style="color: red;">(FROMの後ろに不要なXが入ってしまいました)</p> <p>ALL 限定述語を用いた次の SQL 文があるものとする。 SELECT X FROM X TBL1</p> <p style="color: red; margin-left: 150px;">削除</p>	<p>ALL 限定述語を用いた次の SQL 文があるものとする。 SELECT X FROM TBL1</p>
3	P. 152 図 3-57	<pre>CREATE TABLE 受注明細 (受注番号 DECIMAL(5), 商品コード CHAR(13), 数量 DECIMAL(4), CHECK(受注 . 数量 > 9 AND (SELECT 商品 . 単価 FROM 商品 WHERE 受注明細 . 商品コード = 商品 . 商品コード) >= 10000))</pre> <p>制約の意味：受注数量は 10 以上で、受注商品の単価は 1 万円以上である。</p> <p style="text-align: center;">図 3-57 検査制約の例 (表制約)</p>	<pre>CREATE TABLE 受注明細 (受注番号 DECIMAL(5), 商品コード CHAR(13), 数量 DECIMAL(4), CHECK(受注 . 数量 > 9 AND (SELECT 商品 . 単価 FROM 商品, 受注明細 WHERE 受注明細 . 商品コード = 商品 . 商品コード) >= 10000))</pre> <p>制約の意味：受注数量は 10 以上で、受注商品の単価は 1 万円以上である。</p> <p style="text-align: center;">図 3-57 検査制約の例 (表制約)</p>

4	P. 166 本文 下から 3行目	<p>■順序入替えの規則</p> <p>トランザクション T_i の x の READ を $R_i(x)$, x の WRITE を $W_i(x)$, トランザクション T_j の y の READ を $R_j(y)$, x の WRITE を $W_j(y)$ とする。</p>	<p>■順序入替えの規則</p> <p>トランザクション T_i の x の READ を $R_i(x)$, x の WRITE を $W_i(x)$, トランザクション T_j の y の READ を $R_j(y)$, y の WRITE を $W_j(y)$ とする。</p>
5	P. 173 図 3-74	 <p>トランザクション T_1 トランザクション T_2</p> <p>①LOCK X ②LOCK Y ③LOCK Y ④LOCK X</p> <p>傷付け X ④ 待ち</p> <p>Y ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷付けー待ち方式では, T_1 が, T_2 のロックしているデータにロック要求したとき, T_1 が古いと傷付き死に, 若いと待つ。 ・③において, T_1 がロックしている X に対し T_2 がロックを掛けようとするが, T_2 は T_1 より若いので, 待つ。 ・④において, T_2 がロックしている Y に対し T_1 はロックを掛けようとするが, T_1 は T_2 よりも古いので, 傷付き死ぬ。ロールバックされる。 ・このように古い T_1 がロールバックすることで, デッドロックが避けられる。 ・古い T_1 がロールバックされるので, ロック待ちはなくなり, 若い T_2 が実行される。 <p>図 3-74 傷付きー死に方式</p>	 <p>トランザクション T_1 トランザクション T_2</p> <p>①LOCK X ②LOCK Y ③LOCK Y ④LOCK X</p> <p>傷付け X ④ 待ち</p> <p>Y ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷付けー待ち方式では, T_1 が, T_2 のロックしているデータにロック要求したとき, T_1 が古いと傷付き死に, 若いと待つ。 ・③において, T_2 がロックしている Y に対し T_1 はロックを掛けようとするが, T_1 は T_2 よりも古いので, 傷付き死ぬ。ロールバックされる。 ・④において, T_1 がロックしている X に対し T_2 がロックを掛けようとするが, T_2 は T_1 より若いので, 待つ。 ・このように古い T_1 がロールバックすることで, デッドロックが避けられる。 ・古い T_1 がロールバックされるので, ロック待ちはなくなり, 若い T_2 が実行される。 <p>図 3-74 傷付きー死に方式</p>
6	P. 206 図 4-4 の タイトル	図4-4 1次インデックスとクラスタリングインデックス	図4-4 2次インデックス
7	P. 211 本文上か ら 15行目 図の番号	② 二つの兄弟ブロックが……に分裂させる (図4-10 参照)。	② 二つの兄弟ブロックが……に分裂させる (図4-9 参照)。
8	P. 212 本文上か ら 13行目 図の番号	ビットマップインデックスは, 図4-11 のような構造をしており, ……	ビットマップインデックスは, 図4-10 のような構造をしており, ……

9	P. 213 本文上から10行目 図の番号	……ハッシュインデックスは図4-12 のような構造を	……ハッシュインデックスは図4-11 のような構造を
10	P. 216 本文上から11行目 図の番号	……選択, 直積など) と関係からなる木である (図4-16 参照)。	……選択, 直積など) と関係からなる木である (図4-15 参照)。
11	P. 219 図 4-17 の上 図の番号	(c) ソートマージ結合法 ……入出力バッファに収まらない場合に用いられる (図4-18 参照)。	(c) ソートマージ結合法 ……入出力バッファに収まらない場合に用いられる (図4-17 参照)。
12	P. 241 本文上から8行目	準結合は, 分散データベースの結合演算における通信量を減らすために用いられる方法で, 木質問の処理に非常に適した方式とされている。	準結合は, 分散データベースの結合演算における通信量を減らすために用いられる方法で, 分散問合せ の処理に非常に適した方式とされている。
13	P. 404 図 8-26 の次の行	非ユニークインデックスのときは, 最下位索引ブロックに… …	非ユニークインデックスのときは, 最下位 インデックス ブロックに……
14	P. 481 本文上から5行目	前者は既に説明したプラグインであり, スクリプト言語で書かれたプログラムである。	前者は Webブラウザ上の補助ソフトである プラグインであり, スクリプト言語で書かれたプログラムである。

15	P. 491 図 10-36 の上から 3 番目の 枠内	<pre>SELECT * FROM json_populate_recordset(NULL::学生, '["学生番号":"100","学生名":"情報一郎","生年月日":"1999/04/01", "学部":"工学部"], {"学生番号":"200","学生名":"情報二郎","生年月日":"2000/10/01", "学部":"理学部"}]');</pre> <p>WHERE 学部="工学部" ;</p> <p>削除</p> <p>追加</p>	<pre>SELECT * FROM json_populate_recordset(NULL::学生, '["学生番号":"100","学生名":"情報一郎","生年月日":"1999/04/01", "学部":"工学部"], {"学生番号":"200","学生名":"情報二郎","生年月日":"2000/10/01", "学部":"理学部"}]');</pre>
16	P. 494 本文 下から 2 行目 英語の略 称とスペ ル	<p>……。ただし、ネームノードは、基本は一つであり、データ構成は冗長でもネームノードが単一障害点 (SPF ; Single Point of Failure) になる可能性が高いが、セカンダリネームノード、チェックポイントノード、バックアップノードを付加する</p>	<p>……。ただし、ネームノードは、基本は一つであり、データ構成は冗長でもネームノードが単一障害点 (SPOF ; Single Point Of Failure) になる可能性が高いが、セカンダリネームノード、チェックポイントノード、バックアップノードを付加する</p> <p>※P. 546の索引も合わせて修正いたします。</p>
17	P. 501 本文 下から 8 行目	<p>ビッグデータの三つの「三つのV」を実現するためには、……</p> <p>削除</p>	<p>ビッグデータの「三つのV」を実現するためには、……</p>

株式会社アイテック